

あさか埋文レポート

発行日：令和6年3月1日

発行：朝霞市教育委員会文化財課

埋蔵文化財最新発掘調査情報

◆朝霞市では、現在70か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。

なかみち・なかみちしたいせき 中道・中道下遺跡第12地点

調査地：朝霞市浜崎四丁目地内

期間：令和4年6月14日～7月27日

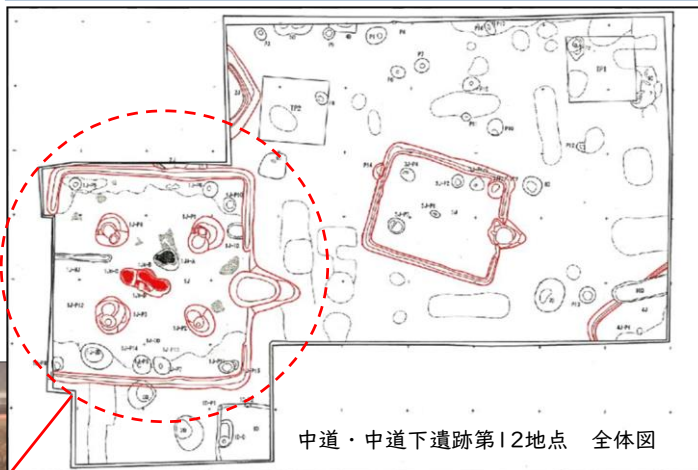
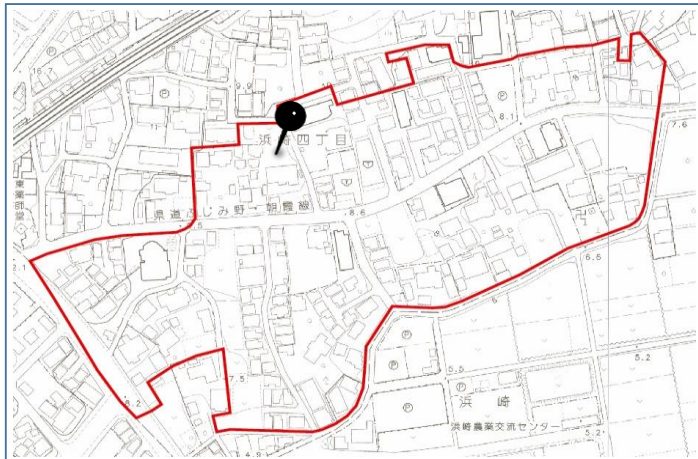
調査面積：185.53㎡

◆今回の調査では、住居跡4基、土坑10基、ピット13基が確認されました。

遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、金属製品、土製品が出土しました。

検出した住居跡のうち2軒は平安時代の住居跡であり、うち1軒は市内で最大級の規模を誇るものでした。平面形は、東西約6.5m、南北約7.0mを測るほぼ正方形で、東壁中央部に大型のカマドを設置し、4本の柱を有していました。出土遺物等から9世紀代の住居跡と考えられます。

周辺の発掘調査結果からも同時代の住居跡が多数検出しており、当調査地点一帯には、平安時代の集落が存在していたものと考えられます。そのような中で、市内最大規模を誇る住居跡が見つかったことは、どのような意味をもち、またどのような人たちが住んでいたのか、今後の発掘調査によって、少しずつ解明していくことに期待されます。



中道・中道下遺跡第12地点 全体図

検出された市内最大級の住居跡



中道・中道下遺跡第12地点 全景写真

おっきい家の跡だね。どんな人が住んでたのかな？



©おさしのフロントあさか